

令和3年度 企画展
大森勝山遺跡～発見から整備へ～



1. はじめに

令和3（2021）年7月27日、第44回^{せかいいさんいんかいかくだいかいごう}世界遺産委員会拡大大会合において、大森勝山遺跡を構成資産のひとつとする「^{ほっかいどう}北海道・^{きたとうほく}北東北の^{じょうもんい}縄文^{せきぐん}遺跡群」の世界遺産一覧表への記載（登録）が決定されました。

大森勝山遺跡は、その発見から昭和・平成の2度の発掘調査を経て、現在史跡整備工事が進められています。

世界遺産登録で全国的にも縄文遺跡群に注目が集まっている今、弘前市の誇る「大森勝山遺跡」を、市民の皆様にご存知いただくことを目的として、本企画展を開催いたします。



遺跡の空撮写真（令和2年撮影）

2. 大森勝山遺跡とは？

大森勝山遺跡は、今から約3,000年前の^{かんじょうれっせき}縄文時代晩期の環状列石が発見された遺跡です。環状列石のほか、大型の^{たてあな}竪穴建物跡、^{いしがこいる}石囲炉跡、^{どきまいせつ}土器埋設遺構、捨て場などが確認されています。

遺跡は、弘前市中心部から北西約14km、大森集落から南東約2kmの弘前市大字大森字勝山に所在します。岩木山の北東麓に延びる^{ぜつじょうだい}舌状台地上の標高130～150m前後に立地し、北側の^{おおい}大森川と、南側の^{おおい}大石川に挟まれています。

3. 大森勝山遺跡の発見

第2次世界大戦後、岩木山麓の大規模農業開発の計画がなされました。この岩木山麓の開発に先立ち、弘前考古学研究会は昭和25（1950）年から岩木山周辺で地表調査を行っていました。昭和27（1952）年の調査の際、遺跡の立地する台地南西端に大きなすり鉢状のくぼみを発見し、周辺から縄文土器等の破片が見つかったことから、縄文時代の大型竪穴建物跡であることが確認されました。後に、台地上の至る所で土器等の破片が発見されたことから、台地全体が遺跡であることが確認されました。

4. 大森勝山遺跡の調査

遺跡が発見されてから数年が経過した、昭和34～36（1959～1961）年に大森勝山遺跡の発掘調査が行われました。この時の調査で環状列石が確認されました。また、遺跡発見の契機になった竪穴建物跡は、当時で日本最大級の規模であることが分かりました。そのほか、^{きゅうせつ}旧石器時代のナイフ形石器が出土しました。当時では、県内で初めての旧石器の出土事例でした。



環状列石の空撮写真（昭和）

この調査では、環状列石の構築にあたり台地が造成されていることや、出土遺物から縄文時代晩期前半に構築されていると考えられました。

調査成果を受けて、市教育委員会は遺跡の保存を決定し、昭和36年度に遺跡地の大部分を公有地化しました。

5. 平成の発掘調査

平成 18～20（2006～2008）年にかけて、遺跡の年代を確定させ、より積極的な保存と活用を図るために、再度発掘調査が実施されました。

この調査により、環状列石の構築にあたり、環状列石の構築年代が縄文時代晩期前半期であると確定しました。また、輝石安山岩を主とし、花崗岩、流紋岩が環状列石に用いられていることが分かりました。そのほか、ど きまいせつ い こう いし 竪穴建物跡が再度発掘されたほか、ど きまいせつ い こう 土器埋設遺構や、いし がこい ろ あと 石囲 炉跡、捨て場などの遺構が確認され、遺跡内での土地利用の一端が明らかになりました。



環状列石の空撮写真（平成）

これらの調査成果により、大森勝山遺跡は、縄文時代のまつりのうつりかわりを知ることで重要な遺跡として、平成 24（2012）年に国の史跡に指定されました。

6. 遺跡の整備と公開活用

国史跡指定後、市は遺跡の保存管理計画および整備計画ほ ぞんかん り けいかくを策定し、平成 29 年度から整備事業を開始しました。環状列石などの遺構は地表下に埋め戻されたまま、さらに保護盛土をして恒久的な保存が図られています。環状列石の遺構表示として、自然石材による実寸大表示せい び けいを行っています。使用した石材は、実物と同質でほぼ同じ大きさ・色・形じっすんだいひょうじのものを、輝石安山岩は大石川の源流である赤倉沢あかくらさわ、花崗岩は鱒ヶ沢町の赤石川あかいしがわ、流紋岩は相馬地区の棚内川で採取したものから選んでいます。設置にあたっては、発掘調査の情報をもとに実際の組石と同じ配置になるようにされています。また、大型竪穴建物跡や石囲炉跡などの遺構も、規模や配置が分かるように平面表示がされています。



整備後の環状列石

遺跡の整備事業のほか、公開活用事業として、「大森勝山じょうもんまつり」を開催しているほか、遺跡の見学会や地元の小中学生を対象とした出前講座が実施されています。

7. 世界遺産登録へ

世界遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、豊かな自然の恵みを受けながら農耕文化以前に 1 万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を今に伝える貴重な文化遺産です。この遺跡群は、人々の生活の実態を示す集落や墓地、祭祀・儀礼の場である環状列石などの、北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する 17 の遺跡で構成されています。

大森勝山遺跡は、縄文時代晩期の複数の集落による共同の祭祀場を示す事例として、また、山岳地帯における生業と高い精神性を示す重要な遺跡として、構成資産の 1 つとなっています。

8. おわりに

今回の展示をきっかけに、大森勝山遺跡や弘前市の文化財に興味を持っていただければ幸いです。整備が進む大森勝山遺跡を見学に、ぜひ現地へも足を延ばしてみてください。なお、大森勝山遺跡は冬期間は除雪がされませんので、雪が解けてからお越し下さい。